

神戸町（全域）

令和6年度

【地域の概要】

- 同町は、濃尾平野の北西部に位置しており、平坦な地が多く、田を中心に農地集積が進んでおり、畑についても肥沃な土壌を活かした施設園芸が盛んであり、野菜や花き等が生産されている。
- 町内の耕地面積は約809ha、うち集積面積は603ha（R7.3時点）となっており、集積率74.5%と、県内での集積率は上位に位置している。
- 農地集積が進んでいる一方、担い手の高齢化や農業後継者の減少が進んでおり、担い手の確保が課題となっている。
- 昨年（令和5年度）には、地域計画作成に向けて、農地中間管理機構関連のほ場整備を計画している箇所がある南平野地域では、まとまって集積・集約化できることから、地域計画の糸口として町内でも先行して話し合いの場を設けた。

取組開始前の状況や課題

神戸町の人・農地プラン策定状況

同町では、町内を4地区に分け、4つの人・農地プランを作成し、令和2年度に全てのプランの実質化を完了。その後は地域の話し合いの場もなく、大きく見直しが行われておらず、地域計画策定と合わせ地域の現状に合わせた見直しを行っていく必要がある。

地域計画策定へ向けた課題

神戸町の人・農地プランは策定期間のベースのものを集積面積等を修正して使用しており、計画当初に登録されている中心経営体の方々も現在ではリタイアされている方もみえるし、神戸町の中でも下宮地域においては、新規就農者も新しく加わっている。このような現実を踏まえ地域計画策定においては、最新の情報を取り入れ作成する必要がある。

取組内容

地域計画の協議の場の実施（令和6年11月）

担当地区農業委員・推進委員および行政、農業関係団体等総勢約60名で、昨年度実施の南平野地区を除く神戸地区、下宮地区、北地区において地域計画策定に向けての協議の場を設けた。

協議の場では、耕作者を落とし込んだ現況地図をもとに、現状の確認と担い手の耕作意向等の確認を行った。



今後の展開と方向性

担い手に寄り添った地域計画へ

令和6年1月に開催した南平野地区と令和6年11月に開催した3地区（神戸地区、下宮地区、北地区）の話し合いの場が終了し、初回の神戸町全域の地域計画が完成したが、初めてということもあり、行政と担い手（営農者）の思いが全部反映されたものではない。今後の展開としては、話し合いの場を数回もうけ、担い手の思いを十分に反映させた地域計画に更新していく。

今後のタブレットの活用

令和4年度に農業委員・農地利用最適化推進委員に導入したタブレット端末（23台）を活用し、出来上がった地域計画の目標地区と常に土地の最新詳細情報を確認しながら精度の高い地域計画（目標地図）を更新していく。